

# 愛知スキー協通信 No.303

発行：新日本スポーツ連盟 愛知スキー協会 2020年 5月1日  
〒460-0011 名古屋市中区大須 1-23-13 TEL052-201-4801(Fax 共)

e-mail:aichiskikyokai@yahoo.co.jp

http://aichiskykyou.yukigesho.com/



編集： イエティー スキークラブ

## 「雪はあるけど滑りおさめ・・・かな？」

文責 愛知スキー協理事長・技術部長兼任 寺田 康男

(みんなで、一つ上の指導員を目指そうプロジェクトメンバー)

人が集まることができないこの状況下では、多くの方がこんな思いだと感じます。いつもなら、これからフィールドが広がる山スキーも含めてです。

こんな時節だから困難をチャンスにしたいです。集う事を楽しさとしてきて個人でなく集団で、要求を基にその実現を夢見る私達としては、身体はともかくも気持ちだけは結集したいですし、確かめたいです。

4月の理事会は中止としました。役員会で今後の日程案を組みました。当面の命綱は、声の掛け合いと、通信・ホームページです。届いていない場合は、繋がる手段を考えましょう。携帯(スマホ)、電話、ファックス、手紙ですが、何処に繋げるかが問題です。相互確認しあえる相手と手段を使って確実にできることを実行してください。しかし、無理はしないでください。重要なのは教え合える場に皆を巻き込む事です。

### 総会準備スタート

シーズンをまとめてください。ストックを付いて切替えていく時期です。スキーのターンと同じで、これを機に大きく前に動いて欲しいです。上に伸び上がって休憩しないでください！スキーシーズンだけのクラブ員でいいでください！

指導員のあなたは今シーズン何を会得しましたか？

そうでないあなたは？楽しんで頂けましたでしょうか？

「指導員としては、何も無かった」でもけっこうです。クラブ員として、得たものはあるはずでしょう。こんな、困難なシーズンは、初めてでしょ。レポートと思うと書けません、一行メモをクラブ代表の理事に託してください！理事会はあと3回です。

今すぐ行動してください。できることを整理整頓して皆と一緒に来期に望みましょう。今までの習慣と棄てられるものは捨てましょう。



## 利尻山バックカントリーツアー (2020.03.19-24)

ぶなの木 鈴木

プロ山岳スキーヤーが厳冬期山頂から一気に滑り降りる映像を見てから利尻山が気になっていました。私には無理と考えていたのですがスキー協のツアー募集を見て、これはチャンスと思い参加しました。

利尻島内での実行動日は4日間。我々6名は宿泊先オーナーのガイドツアーを申し込んでいます。このツアーは人気があるらしく、宿は主にツアー客で満員でした。初日は悪天で残念ながらBCツアーは中止となりました。しかたなく雨の海岸道路周遊(50km余り)観光及び温泉入浴で過ごしました。

2日目、3日目は天気が回復。島の東側にある旭浜からアワトロマナイ川両岸の尾根に行きました。二日間とも、朝方クトー多用を強いられる硬い雪面を登り、昼近く雪表面が緩むのを待って楽しいフィ



ルムクラスト雪斜面を一本目、登り返し変化に富んだ雪面を二本目、もう少し標高を上げて滑る組とのんびり滑る組に分かれて三本目を楽しみました。昼食を取り滑り下りてくると午後3時でした。左写真は720m地点からの利尻山及アワトロマナイ川上部です。圧巻でした。さらに頂上から滑ったトレースがあり、びっくり！利尻山裾野は海岸から緩く長く続くため、アプローチはスノーモービルを使い(水上スキーのように引っ張られて)数人まとめて効率良く登山口まで行きます。まるで遊園地のお遊びですが、結構足が疲れるし転倒の恐れがあり油断できません。

最終4日目、時間に余裕のある4名がBCツアーに参加。島の南西側にある大空沢から仙法志第二尾根方向へ行きました。島の反対側に車で、さらに6km先まで大空沢をスノーモービル牽引スキーで行き、その後硬い雪斜面をシール+クトーで登り標高1000m見晴らしの良い稜線へ到着。ここからの利尻山頂部や西壁は思わず声が出るような素晴らしさ(下の写真)。真っ白な雪、

氷をまとった針峰群が快晴の下で光り輝き、ここはヨーロッパアルプスか？パタゴニアか？のような景観。雪面が緩むのを待って標高差500m越えの一本目を楽しむ。比較的広い谷の中で雪もまらず。このあたりが今回のツアーのハイライトでした。これで十分満足したので「もういいかな」の気分でしたが、時間がまだあったので標高900mまで登りなおし2本目を楽しみました、続いて今朝スノーモービルで登った広い平らな河原を3km(これは初めての経験で楽しい)および森林帯の切り開き道を3kmほど、緩い斜面を滑ってBCスキー終了となりました。

BCスキーは基本的に健康上安全な環境下で行われる健全な活動です。出発する前は北海道が最も新型コロナウイルス感染者が多い地区で心配でしたが、今回は幸い楽しむことができました。早い感染拡大ピークアウト及び収束を願っています。

**利尻山(りしりざん)は、北海道の利尻島にある独立峰で標高1,721m。「利尻富士」とも呼ばれる。日本百名山、花の百名山の一つ。**

## 道南の山スキー

ぶなの木 大城

3月24～30日 釋さんの山荘に宿泊して道南の山スキーを楽しみました。メンバーは6人。釋さん、そして鈴木さん、八木さん(ラ・ランドネ)、大城の3人は利尻島から、リーダーの大森さんは高知から、田中さんは樺池からの集合です。



山スキーツアーは実質5日間で岩内岳2回、白樺山、イワオヌプリとヒラフゲレンデ、積丹岳ですが印

象の深かった2か所を報告します。

## 25日と27日は岩内岳

岩内岳は釋さんの山荘の窓からいつでも見ることができる山ですが、今まで冬のシーズンに頂上までたどり着くことができませんでした。

今回、約3時間の登行でやっと1088mの頂上に立つことができました。いつも見ている優しそうな山の頂上付近は風が強く、雪はガリガリで海に向かって滑降する斜面はクラスト雪でした。頂上直下から滑る「へっぴりごし」の写真は大城ですが、飛び散る雪は破片であり、気を抜くとエッジが引っ掛かる感じで怖かったです。途中からスキー場のバージン雪に入るとホッとしました。しかし、スキー場営業期間中は外国人が「ここは私たちが管理しているスキー場だ」とクレームを付けてきます。日本国家の土地なのに！



滑りおりてきて、見上げる頂上

## 29日は積丹岳

積丹半島のほぼ先端にある積丹岳1255mは2年前に大森さんと前田さんと秋に登り、斜面を見ながらスキーで滑ってみたいね、と話していました。今回は何としてもここを滑りたいと思い、天候が一番穏やかな日を選んで登頂することができました。標高150m付近の林道から登り3時間半程度で頂上に立つことができました。緩やかな斜面が多いのですが頂上直下はクトーがないと登れないぐらいカチカチでした。

滑降もしばらくはガリガリで足に骨折で埋め込んだボルトが緩みそうでした。だんだんクラストから柔らかに雪に変化し、楽しい北海道ツアーも終わりました。30日には恐怖のコロナウイルス圏に帰ることとなりました。

### これからの行事

スキー場は5月6日まで休止・終了です。5月中はできない情勢です。

全国山スキー交流会（5月16日17日針ノ木雪渓）も中止です。

5月の理事会も中止し、メール等で進めます。

愛知スキー協会総会は7月5日です。実施に向けて取り組んでいきます。

会場は確保してあります。今後状況を見て判断します。

4月通信 アルペン用語解説の写真が全く見えませんでした。ワックスの温度表示を現した写真でした。右のような表示です。マイナスは雪の温度でプラスは気温を現しています。



### 関西ポール合宿に参加して



### レベルアップしたよ

昨年関西ブロックスプリングレベルアップ&検定・研修会に寺田康平君がポールの講師を要請され、愛知スキー協がバックアップして会を盛り上げました。今年も要請があり、昨年同様康平君は講師で他（寺田康男、澤田安利・藍雅、安藤洋子）は参加者として行きました。日程は4月3日（金）・4日（土）ポール練習、5日はフリー（昨年は高天原のGS大

会に出場、今年は大会そのものはありませんでした)。ポール等はすべて愛知の物を持って行きました。澤田がフラッグを忘れ金曜日フラッグなしで行いました。土日と東京スキー協は別企画で同宿「山楽」・ポール練習会(吉岡大輔さんを招いて)にて隣で練習していたのでフラッグを借りました。フラッグが同じなのでコース上で混乱しやすかったのでセット替えで取りました。講師料(カンパ)・ポール使用料など収入となりました。

大会の事前練習の意味合いはないので基本練習を目当てに行いました。康平君の滑りを見ながら、ラインを上げる。外足に乗る。できれば外足に乗って板を走らせる動きを身に付ける。そのために、腰・肩・膝の位置はどうか、手の使い方の工夫は、スキー協で言う「くの字」・「弓なり」姿勢は取れているかなど練習しました。両日とも天気はよく、思ったより雪面は緩まらずに練習ができました。

3日は、さあセットというときに一ノ瀬タイヤモンドのリフトが止まり、ハーネスを付けてリフトから地上に降りる貴重な体験をした方もいました。それで一ノ瀬ファミリー(下から見て右端中間からやや緩斜)でできるようにパトロールが手配しダイヤモンド頂上にあるポールもスノーモービルで運んでもらい実施できました。午後にはリフト復活しましたが移動等大変なのでその場で練習しました。

4日はダイヤモンドで練習しました。両日ともしっかりビデオを撮り、夜ビデオ視聴とアドバイス会をしました(コロナ対策でここに伝達するような形で行いました)。

ラインを上げるためにトレーニングブラシセットし、ブラシの外側を通り、そこではもう切り替えをするようにしました。効果は絶大で皆ライン取りが全く変わり、結構余裕をもってターンができていました。ブラシを外すともとに戻る感じはありましたが、それでもかなりいいライン取りになったと思います。関西の方も満足と思います。

安藤さんは、外足にのるという意味が分かってきました。体が回ってしまうことも多いですか板がたわむと走ることを体験できていました。

康男さんは板に結構乗れますが、ローテーションして力がうまく伝わらない。写真では、腰を前に出すようにして右肩がもう少し前だと乗れたのではと思います。緩斜では結構いい感じでした。

藍雅君も同様に腰・肩が滑る方向より少し斜めになっており、手を上げる。フォールラインに向くこと練習しています。

康平君の写真(上)から①背筋は伸びて胸を張っている②くの字姿勢ができフォールラインを向いている。つまり頭体軸は垂直、肩腰は水平になっている。藍雅君も体軸は垂直ですね。二人とも手が上がればもっといいですね。

ビデオや写真を見る目も養い、目標を決めて向上しましょう。安利は、思ったより姿勢が高いのが見て取てるのでこれを意識して練習しました。

「関西の差し入れていただいたワインがとても美味しかったです。また、山楽に泊まりたいですね。3日目の雪は締まっていて、この時期なのに、今までの志賀高原で、最高でした。」安藤感想抜粋 文責澤田安利 <上から安藤・康男・藍雅の各氏>

